

「まちぐるみの支え合い」

～今、あなたができることはなんですか～

これからご覧いただく物語は、医療や介護職の人手不足が深刻な状況の中、地域住民と専門職が協力して支え合い、誰もが自分らしく住み慣れた地域で生活を続けられるために、まちぐるみの一員として、一人ひとりが今できることを考え行動するそんなまちぐるみの支え合いの姿が描かれています。地域の皆さんと専門職がどのような役割を果たし、どのように支え合っていくのかをぜひご覧ください。

**医療と介護に携わる人たちが贈る
オリジナル構成劇！！**

2024 年

11 月 30 日 10:15~11:00

入場
無料

📍 会場：武蔵野スイングホール





第1幕 流行病との闘い

新型コロナウイルスに罹患した方へ看護師、ヘルパー、福祉用具担当者が協力して患者のケアを行う場面を描いています。

◎登場人物：

- ・感染対策をしている専門職たち
- ・个人防护具を装着したレスキューヘルパー
- ・个人防护具を装着した訪問看護師
- ・福祉用具事業者



第2幕 シニア世代の語り

シニア世代の友人たちが集まり、自身の健康、介護、終活について話し合うシーンを描いています。老後の生活に対する不安や期待、またシニア世代が互いに助け合いながら老後に備える姿が描かれています。

◎登場人物：平均年齢80歳の仲よし5人組

- ・寺町 緑子（てらまち みどりこ）
武蔵野市で生まれ武蔵野市で育ち、顔が広い。人情があって、世話焼き。
- ・関世（せきよ）武蔵野市在住50年。結婚から子育てを経て今に至る。
子育て時代からのつながりもあり色々な情報をもっている
- ・南（みなみ）母親（久子さん）を自宅で看取った経験がある。長女はケアマネ、次女は訪問看護師をやっている
- ・本子（もとこ）夫を亡くしてから地方から娘家族が住む武蔵野へ転居してきた。
娘家族と同居はしておらず一人暮らし
- ・御鈴（みすず）介護受けている。脳梗塞の後、大腿骨骨折をして介護保険サービスの体験者。現在は、シルバーピア在住



第3幕 介護世代の悩み

介護世代の人々が職場の休憩室で集まり、自分自身や家族の介護に直面し、経験を共有しながら、介護世代が抱える悩みや困難に向き合い、互いに支え合いながら、解決策を模索していく姿を描いたものです。

◎登場人物：平均年齢50代の介護世代たち

- ・北本（きたもと）地方に親がいる介護世代 現役の会社員。
山梨県出身、武蔵野市在住。実家に要介護の母親が1人で過ごしており、1回/月は2泊3日くらい帰郷している。
- ・西（にし）同居している介護世代。契約社員として働いている。夫と夫の父親と3人暮らし。
義父のもの忘れなどが気にかかり、みんなによく相談をしている。
- ・本町（もとまち）介護経験者介護世代契約社員として働いている。現在、母親の介護をしながら仕事を両立させている。父親は急逝し介護する間もなく見送ることになり後悔の念もある。





第4幕

新しい介護

現代のテクノロジーを活用して在宅介護生活を送る人々が描かれています。スマートフォンや音声アシスタントなどを使い、自宅での生活を快適に保っています。

◎登場人物：

- ・吉寺（よしでら）難病で四肢が動かせない一人暮らしの障害者
ICTなどを使い人に頼らずも自分でできることを見つけ快適に過ごす努力をしている
- ・訪問入浴業者



第5幕

退職後の生活

退職後の男性たちが新しい生活を模索し、社会とのつながりを保とうとする様子を描いています。高齢者が孤独を和らげ、他者との交流や新しい活動に対して前向きに取り組む姿がテーマとなっています。

◎登場人物：平退職後の男性たち

- ・堤（つつみ）一人暮らし男性。
数年前に妻をがんで亡くしている。とくに地域デビューをすることなく過ごしていたが、妻を亡くしてからいきいきサロンに参加するようになった。
- ・殿山（とのやま）高齢者世帯夫
活動的な妻と正反対で、人との交流を積極的にとるタイプではない。大人数で何かをやることは好まないが、小人数で話すことは苦ではない。



第6幕

孤独と支援

孤独や無力感に悩む高齢者が支援を受け入れる難しさや、その支援の重要性がテーマです。本人は当初、誰にも頼らずに生きようとしませんが、友人の訪問を通じて少しずつ支援を受け入れる気持ちになります。友人の言葉が、地域コミュニティの力と助けを求めることの大切さを象徴しています。周囲の人々の支えが彼の状況を少しでも改善するきっかけになることが示されています。

◎登場人物：同級生同士のふたり

- ・東 祥吉（ひがし しょうきち）介護拒否をしている高齢者
武蔵野市で生まれ武蔵野市で育つ。妻を亡くしてから息子と折り合悪く、息子は出て行ったまり連絡が取れないでいる。人との交流は好まず、変わり者といわれている。寺町緑子とは同級生
- ・寺町 緑子（てらまちみどりこ）
武蔵野市で生まれ武蔵野市で育ち、顔が広い。人情があって、世話好き。





第7幕



連携

地域包括支援センターで孤独や無力感に悩む高齢者の支援計画を話し合うケース会議を描いており、複数の専門職が連携して彼を支援する様子が強調されています。地域福祉や介護の連携の重要性がテーマであり、若い世代がこの分野で働く意義も描かれています。

- ◎登場人物：介護・看護の専門職と福祉を学んでいる大学生
- ・前寺（まえでら） 地域包括支援センター職員
武蔵野市で20年以上高齢者事業に関わるベテラン。頼りになる存在
 - ・境（さかい） 事業所ケアマネ
武蔵野市で居宅介護事業所を営んでいる。医師や包括からの信頼も厚い
 - ・久保（くぼ） 転職してきたケアマネ
夫の転勤で上京。武蔵野市に憧れ上記事業所に就職をした。30代若手のホープとして期待されている。
 - ・本祥（ほんじょう） 実習生
地域包括で実習をしている大学3年生の福祉系学生。今回の実習で経験したことをきっかけにこの業界で就職を考えている。
 - ・中町（なかまち） 訪問看護師
地域包括支援センターに併設している訪問看護ステーションに勤務。センター併設ステーションということもあり、社会的背景に事情がある方を多く受けもっている。
 - ・桜野（さくらの） 育児休暇中の訪問看護師
 - ・武蔵（むさし） 桜野の息子



第8幕



協力

自宅サービス担当者会議が行われています。高齢者が抱える問題（健康、経済、家族関係）に対する地域の福祉サービスや専門職のサポートを描いています。彼は、当初は自力で何とかしようとするものの、次第に支援を受け入れていきます。この過程で、友人や地域の専門職が支え合いながら生きていくことの重要性が強調されています。また、迷惑をかけ合いながらも共に生きることの価値や、支援を受けることが「恥」や「弱さ」ではなく、必要な協力であるというメッセージが込められています。

- ◎登場人物：
- ・東 祥吉（ひがし しょうきち） 介護拒否をしている高齢者
 - ・寺町 緑子（てらまちみどりこ） 東庄吉の同級生
 - ・訪問診療医
 - ・前寺（まえでら） 地域包括支援センター職員
 - ・境（さかい） 事業所ケアマネ
 - ・久保（くぼ） 転職してきたケアマネ
 - ・中町（なかまち） 訪問看護師
 - ・本祥（ほんじょう） 実習生
 - ・福祉用具業者





第9幕



地域のケア

彼が医療や介護サービスの支援を受けながら回復し、日常生活に戻っていく過程を描いています。複数の専門職が連携して東さんを支え、彼の状態が改善していきます。東さん自身の努力と専門職の協力が結びつき、自立した生活に向けて進んでいく姿を描写し、在宅介護における地域のケア体制の重要性を示しています。

◎登場人物：自宅を訪問する専門職たち

- ・東 祥吉（ひがし しょうきち） 介護を受け入れはじめた高齢者
- ・訪問介護士
- ・薬剤師
- ・訪問リハビリ
- ・デイサービス



第10幕



まちぐるみの支え合い

地域の人々がそれぞれの生活を取り戻し、コミュニティの中で支え合いながら充実した日々を送っている様子が描かれています。個々のエピソードを通じて、地域の支え合いの重要性とその影響が示されています。このシーンは、地域の人々と専門職が連携しながら、それぞれの支援が織りなす支え合いのネットワークを強調しています。各人物のストーリーを通じて、地域全体が互いに助け合い、支え合うことの重要性が伝えられています。

